

- 問1 戦国大名の朝倉氏が定めた法には、家臣が各自の領地で勝手に城を構えることを禁じ、大名の本拠地に住まわせる方針が示されています。このように、大名が家臣を自らの膝元に集住させた目的として、当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 広島県公立入試 類似)
1. 海外から伝来した鉄砲やキリスト教が、地方の家臣に広まるのを防ぐため
2. 家臣を農村に定住させることで、戦時以外は農業に専念させて食料生産を増やすため
3. 家臣を各地の拠点に分散して配置することで、領土の境界線の防衛を固めるため
4. 家臣と土地の結びつきを弱めて反乱を防ぎ、軍事・政治的な統制を強化するため
- 問2 16世紀半ば、種子島に漂着した西欧人との交流によって日本にもたらされた武器について、その名称と伝えた人々の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 弓矢を中国（明）の商人が伝えた。
2. 日本刀をオランダ人が伝えた。
3. 大砲をスペイン人が伝えた。
4. 火縄銃をポルトガル人が伝えた。
- 問3 日本の歴史において、守護・地頭の設置や御成敗式目の制定が行われた時代（鎌倉時代）の様子を説明した記述として、ふさわしくないものはどれですか。 (2018年 熊本県公立入試 類似)
1. 将軍と御家人が、土地を媒介とした御恩と奉公の主従関係を結んだ。
2. 北条氏が執権の職に就き、幕府の政治を動かした。
3. 実力のある下の者が上の者を倒して地位を奪う、下剋上の風潮が広がった。
4. 元軍の侵攻に対し、九州の御家人たちが防戦に当たった。
- 問4 1543年にポルトガル人を乗せた船が現在の鹿児島県にある島に漂着し、日本に初めて火縄銃が伝えられました。この出来事がその後の戦国時代の戦い方に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。 (2024年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 騎馬武者同士による一騎打ちが戦いの中心となった。
2. 足軽などの歩兵による集団戦法が重視されるようになった。
3. 弓矢が全く使われなくなり、すべての兵士が銃を装備した。
4. 接近戦を防ぐために、城の石垣をあえて低く築くようになった。
- 問5 日本列島の地理的区分において、中国地方の日本海側に位置する島根県にあり、戦国時代に大名の保護を受けた商人たちによって大規模な開発が進められた銀山はどれですか。 (2023年 岐阜県公立入試 類似)
1. 足尾銅山
2. 生野銀山
3. 佐渡金山
4. 石見銀山
- 問6 戦国大名が領国内の統制を図るために定めた「分国法」の性質について説明したものとして、正しいものはどれですか。 (2024年 東京都公立入試 類似)
1. 豊臣秀吉が全国を統一した後、農民から武器を取り上げるために発令したものであった。
2. 源頼朝が全国の守護や地頭に対して、公家との紛争を公平に裁くために制定したものであった。
3. 日本で最初の本格的な法律であり、天皇を中心とした律令国家の仕組みを定めたものであった。
4. 大名が自分の領国内にのみ適用した独自の法律であり、地域の実情に応じた内容であった。
- 問7 1543年に日本の種子島へ鉄砲が伝来した時期、ヨーロッパではドイツのルターがローマ教皇や教会の権威を否定する動きを見せていました。このルターから始まった、キリスト教のあり方を問い直す一連の運動を何と呼びますか。 (2019年 大分県公立入試 類似)
1. 宗教改革
2. ルネサンス
3. 十字軍
4. 産業革命
- 問8 戦国大名は軍事力だけでなく、経済力を高めるために石見銀山などの鉱山開発を進め、石州銀と呼ばれる銀貨を流通させるなど、領国の経営に力を入れました。このような大名たちが、領国内の家臣の統制や紛争解決、土地の支配を目的として制定した「分国法」の性格について述べた文として、最も適切なものはどれですか。 (2023年 栃木県公立入試 類似)
1. 各戦国大名が、自分の領国の実情に合わせて独自に制定した法律である。
2. 村々が自衛のために組織した「惣」において、農民たちが話し合って決めた決まりである。
3. 朝廷が定めた律令を補い、貴族の土地所有権を保護するために制定された法律である。
4. 幕府が全国の武士に対して一律に守らせるために制定した、全国共通の法律である。
- 問9 豊臣秀吉による朝鮮出兵が始まった1592年（文禄の役）よりも前の時代に、世界で起こった歴史的出来事として正しいものを答えなさい。 (2017年 高知県公立入試 類似)
1. ドイツにおいて、当時として最も民主的といわれたワイマール憲法が制定された。
2. ポルトガルの航海者バスコ・ダ・ガマが、アフリカ大陸の喜望峯を経てインドに到達した。
3. フランスにおいて、市民が自由と平等を求めて蜂起し、フランス革命が起こった。
4. アメリカ合衆国で、奴隷制の存廃をめぐる北部と南部の対立が深まり、南北戦争が始まった。
- 問10 戦国大名が領国内の武士や民衆を統制するために定めた「分国法（分国章程）」に関連する記述として最も適切なものはどれですか。なお、法の中には家臣同士の私的な争いを禁じる「喧嘩両成敗」などの規定が含まれているものとします。 (2018年 秋田県公立入試 類似)
1. 家臣たちが実力で主君をしのぐ下剋上の動きを抑え、領内の秩序を維持するために制定された。
2. 朝廷から与えられた公家法をそのまま適用し、京都の文化を地方に広めるために制定された。
3. 農民が団結して一揆を起こすことを推奨し、幕府の権威を完全に否定するために制定された。
4. 全国の戦国大名が共通のルールを持つことで、大名間の和平を促進するために制定された。
- 問11 戦国時代の社会や法律について説明した文章として、「朝倉氏が城の建築を制限する規定を設けたことや、武田氏が喧嘩両成敗の原則を定めたことなど、大名が独自に定めた規定が存在した」という記述があります。この記述の説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 岩手県公立入試 類似)
1. これは江戸幕府が成立した直後に各大名を統制するために出された武家諸法度に関する記述である。
2. これは室町幕府が守護大名の権力を強めるために制定した建武式目に関する記述である。
3. これは鎌倉幕府が御家人同士の土地の紛争を裁くために制定した御成敗式目に関する記述である。
4. これは下剋上の風潮のもとで戦国大名が定めた分国法に関する記述である。
- 問12 戦国大名が「分国法」を制定した主な背景や目的として、最も適切な説明を選びなさい。 (2023年 福井県公立入試 類似)
1. 江戸幕府が大名たちの婚姻や城の修理を制限し、全国の諸大名を統制しようと考えたから
2. 鎌倉幕府が御家人たちの領地争いを裁判によって公正に解決し、武士の支持を集めようとしたから
3. 明治政府が近代的な国家を建設するために、西洋の法制度を取り入れて国民の権利を定めようとしたから
4. 応仁の乱を経て室町幕府の支配力が弱まったため、大名が実力で自国の武士や民衆を統制する必要があったから
- 問13 室町時代後半から戦国時代にかけて見られた、身分や立場が下の者が、実力によって上の者に打ち勝ち、その地位を奪う社会的な風潮を何といいますか。 (2016年 静岡県公立入試 類似)
1. 御成敗式目
2. 下剋上
3. 尊王攘夷
4. 一向一揆